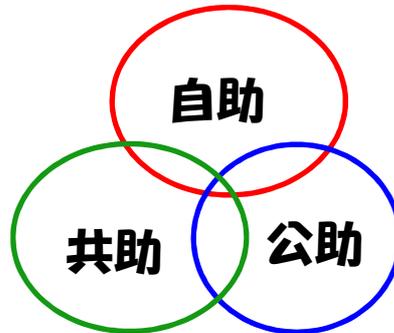


安城市校區別地震防災カルテ

学区：錦町小学校区



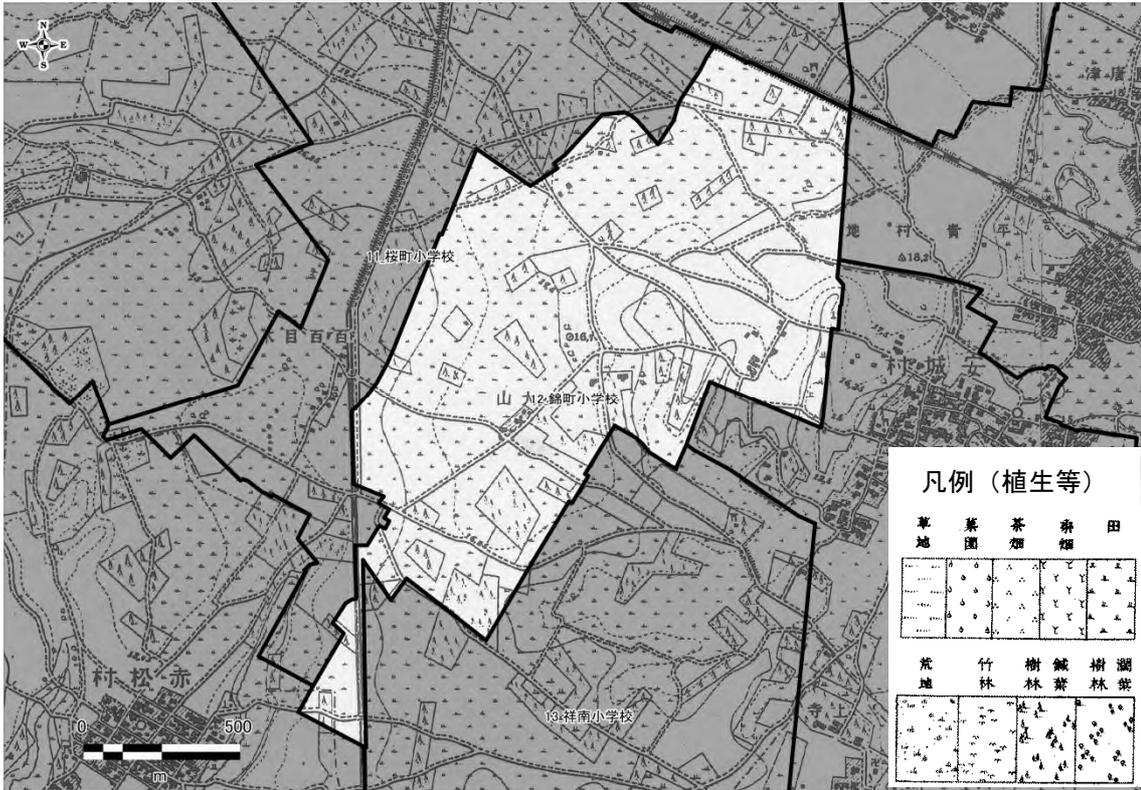
自分たちが住んでいる地区の状況や被害想定、防災施設を把握し、地震に強いまちづくりを進めていきましょう。

安城市

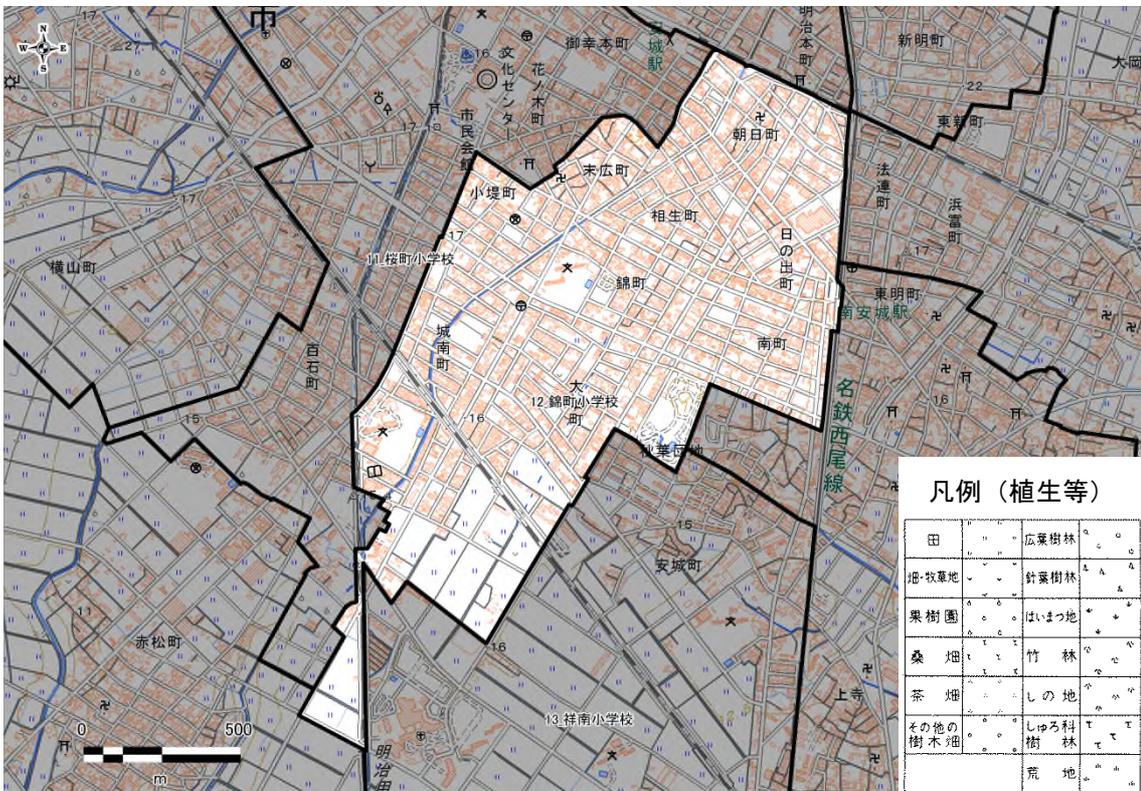
目 次

錦町小学校区のおかしと今	1
1. 校区の位置図	2
2. 校区の構成	2
3. 校区の概要	2
4. 被害予測の結果（過去地震最大モデル）	4
5. 被害予測の結果（理論上最大想定モデル）	6
6. 防災関連施設	8
7. 避難所等一覧	9
8. 防災上の課題	9
9. 防災関連施設分布図	10

錦町小学校区のおかしと今

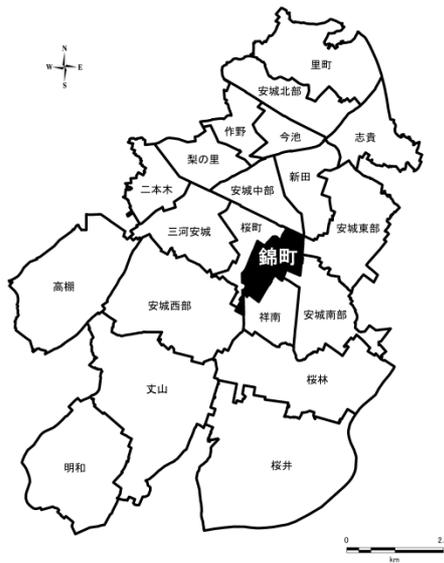


むかし (1890年 (明治23年) ごろ) の校区付近の地形

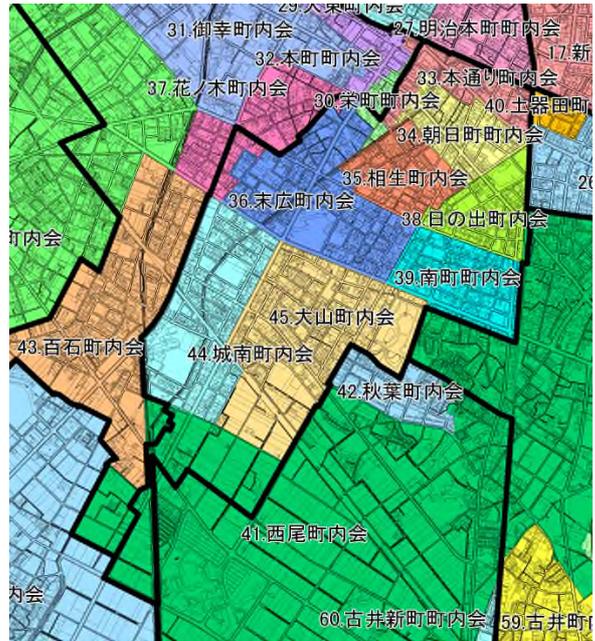


今の校区付近の地形

1. 校区の位置図



校区面積約 1.73km²
(安城市全体の 2.0%)



町内会区分図

2. 校区の構成

末広町、朝日町、相生町、錦町、日の出町、南町、小堤町〔1番から7番まで・13番から16番まで〕、城南町〔1丁目・2丁目〕、大山町〔1丁目(同町1丁目8番地及び9番地を除く)・2丁目〕、安城町〔西広畔(市道御幸本赤松線以東並びに同町西広畔29番及び31番)・広美(同町広美2番3、2番5及び140番以東、市道広美庚申線以北並びに同町広美145番以西(同町広美12番を除く))〕

3. 校区の概要

【位置】 錦町小学校区は、市中心部のやや北に位置する。

【土地】 標高は比較的高く平地が広がっている。

【土地利用】 南部に田畑、北部に住宅が広がっている。

人口密度が一番高い校区である。

【交通】 校区中央に東西に県道岡崎刈谷線(48号線)が通っており、県道安城碧南線(45号線)と交差している。

安城東部小学校区との境界に名鉄南安城駅がある。

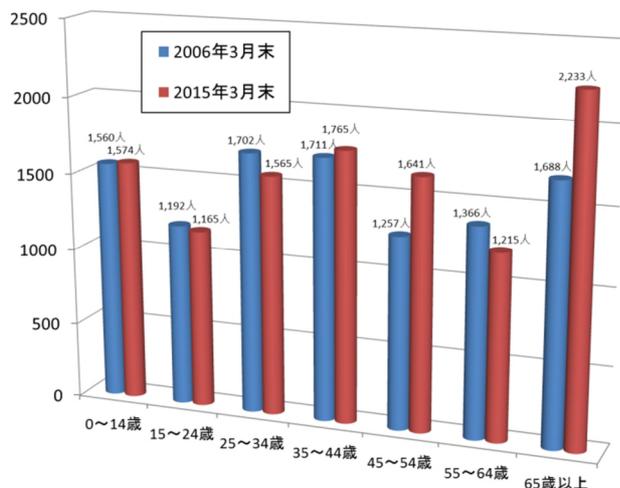
校区東部に名鉄西尾線が通っており、おおむね安城東部小学校区および安城南部小学校区との境となっている。

【その他】 町内会は、本通り町内会、朝日町町内会、相生町内会、末広町内会、花ノ木町内会、栄町町内会、城南町内会、大山町内会、西尾町内会、日の出町内会、南町町内会

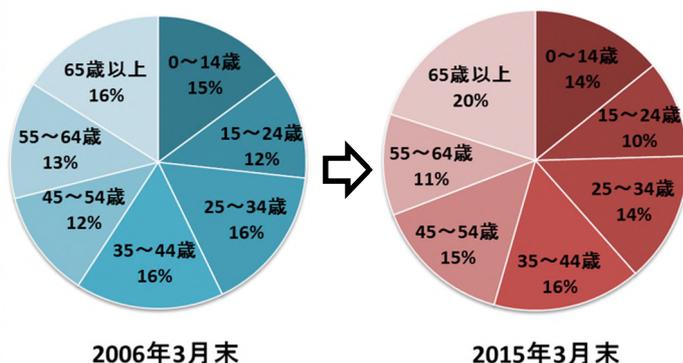
【人口等】(2006年3月末時と2015年3月末時の比較)

人口は増加している。ただし、65歳以上の高齢人口比率も増えている。

2006年3月末	人口	校区内での比率
0～14歳	1,560人	15%
15～24歳	1,192人	12%
25～34歳	1,702人	16%
35～44歳	1,711人	16%
45～54歳	1,257人	12%
55～64歳	1,366人	13%
65歳以上	1,688人	16%
人口(合計)	10,476人	100%
人口密度	6,055人/km ² (全市 2,013人/km ²)	
世帯数	4,195世帯 (対全市 6.9%)	

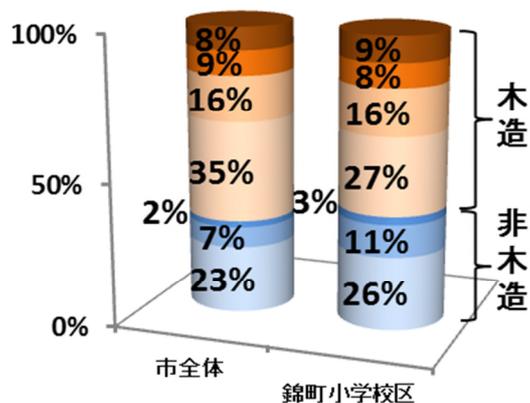


2015年3月末	人口	校区内での比率
0～14歳	1,574人	14%
15～24歳	1,165人	10%
25～34歳	1,565人	14%
35～44歳	1,765人	16%
45～54歳	1,641人	15%
55～64歳	1,215人	11%
65歳以上	2,233人	20%
人口(合計)	11,158人	100%
人口密度	6,450人/km ² (全市 2,151人/km ²)	
世帯数	4,724世帯 (対全市 6.8%)	



【建物棟数】(2011年12月)

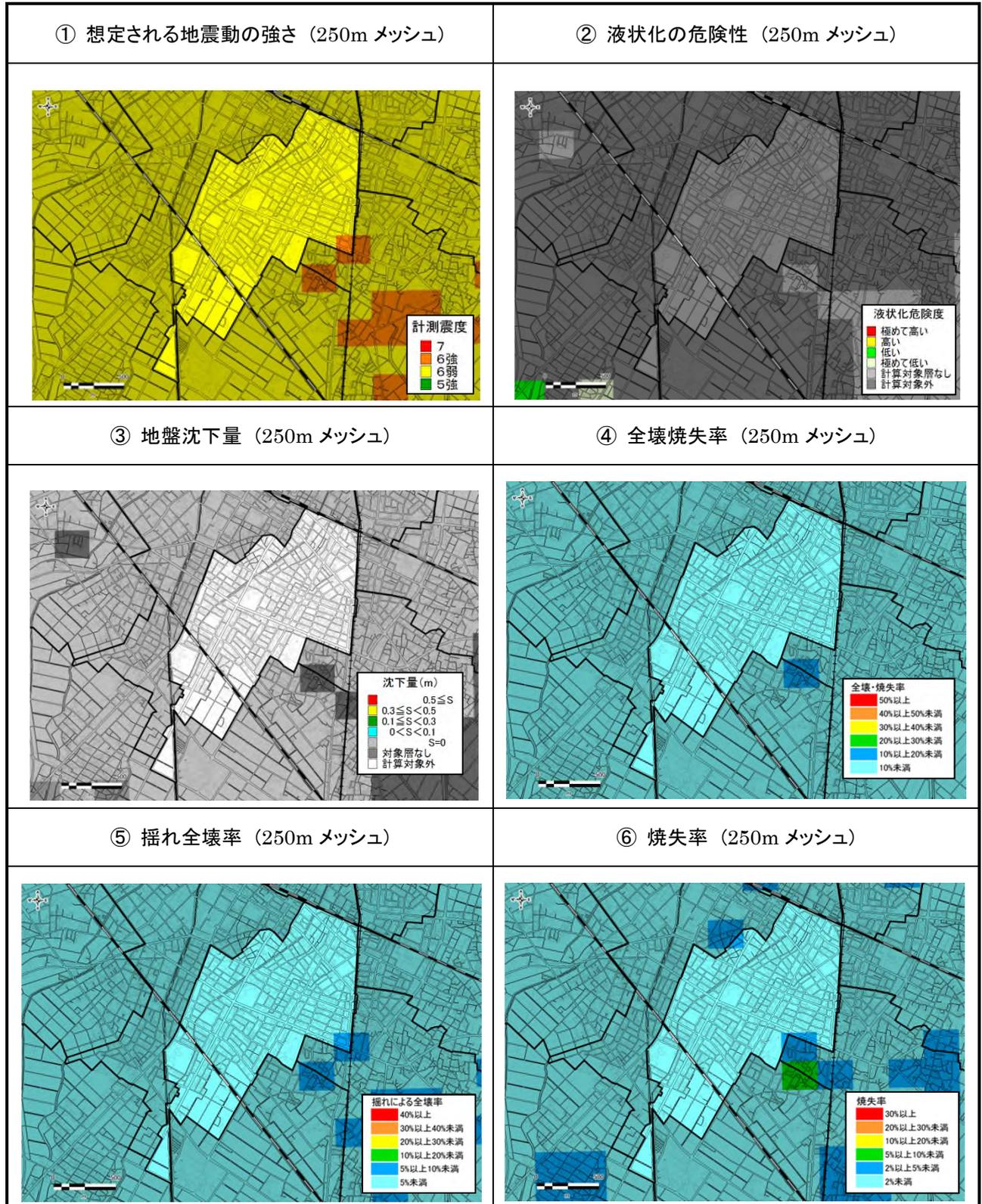
		建物棟数(2011年12月)	校区内での比率
木造	昭和36年以前	301棟	9%
	昭和37～46年	279棟	8%
	昭和47～56年	550棟	16%
	昭和57年以後	918棟	27%
非木造	昭和46年以前	95棟	3%
	昭和47～56年	382棟	11%
	昭和57年以後	872棟	26%
建物棟数(合計)		3,397棟	100%
1km ² 当たりの建物棟数(校区/全市)		校区: 1,964 / 全市: 699(棟/km ²)	



4. 被害予測の結果(過去地震最大モデル)

過去地震最大モデルとは：

- ・南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうち、発生したことが明らかで大きいもの(1707年「宝永地震」(M8.6)、1854年「安政東海地震」(M8.4)、1854年「安政南海地震」(M8.4)、1944年「昭和東南海地震」(M7.9)、1946年「昭和南海地震」(M8.0))を重ね合わせたモデル。
- ・本市の地震対策を検討する上で重要な想定とした。



4. 被害予測の結果(過去地震最大モデル)

錦町小学校区は、震度 6 弱から一部震度 6 強の揺れが想定されている。震度 6 弱は立っていることが困難になるほどの揺れであり、震度 6 強ははわないと動くことができないほどの非常に強い揺れである。したがって、建物の耐震補強と家具の固定を進めることが大変重要である。液状化に関しては、校区が台地上にあるため、液状化の対象となっていない。

<建物・人的被害の予測>

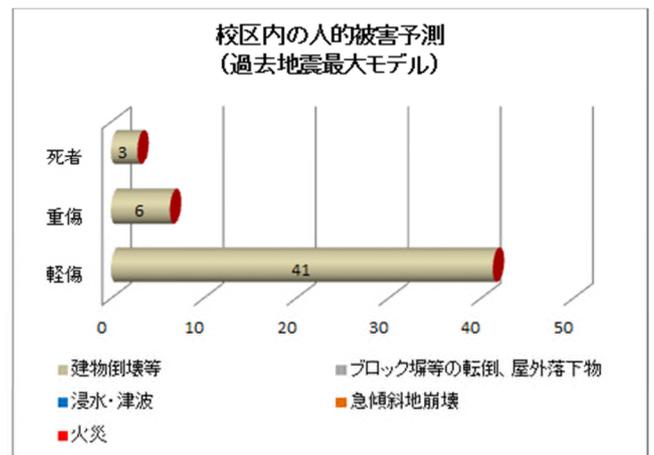
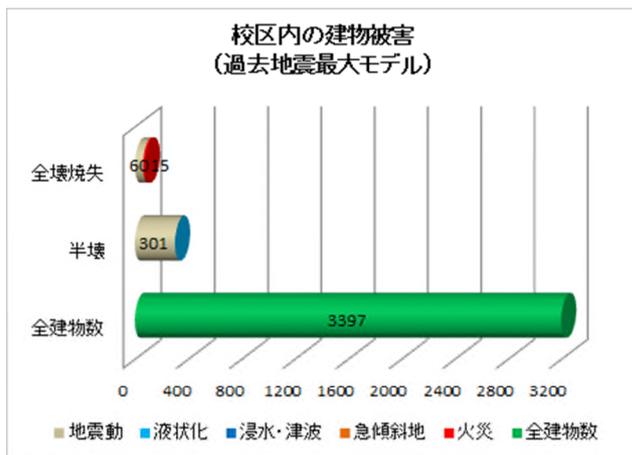
単位:(棟)

建物被害【冬・夕方発災】		
※()内は、校区の建物棟数3,397棟に対する割合		
	全壊・焼失	半壊
地震動	60	301
液状化	*	*
浸水・津波	0	0
急傾斜地	0	0
火災	15	—
建物被害総数	75(2.2%)	301(8.9%)

単位:(人)

人的被害【冬・深夜発災】			
※()内は、校区の深夜人口10,847人に対する割合			
	死者数	重傷者数	軽傷者数
建物倒壊等	3	6	41
(うち屋内転倒物・ 屋内落下物)	*	(2)	(6)
ブロック塀等の転倒、 屋外落下物	*	*	*
浸水・津波	0	0	0
急傾斜地崩壊	0	0	0
火災	*	*	*
被害者数合計	3(0.03%)	6(0.06%)	41(0.38%)

*: わずか



※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

<ライフライン被害の予測>

ライフライン	被害	95%復旧するのに
上水道	被災直後、約9割が断水	約6週間
下水道	被災1日後、約7割が利用困難	約3週間
電力	被災直後、約9割が停電	約1週間
通信【固定電話】	被災直後、約9割が通話支障	約1週間
通信【携帯電話】	被災1日後、基地局の電波が停止する確率が、最大約8割	約1週間(基地局の復旧)
都市ガス	被災直後、0.3割が供給停止	約2週間
LPガス	被災直後、約1割が機能支障	約1週間

<避難者数の予測>

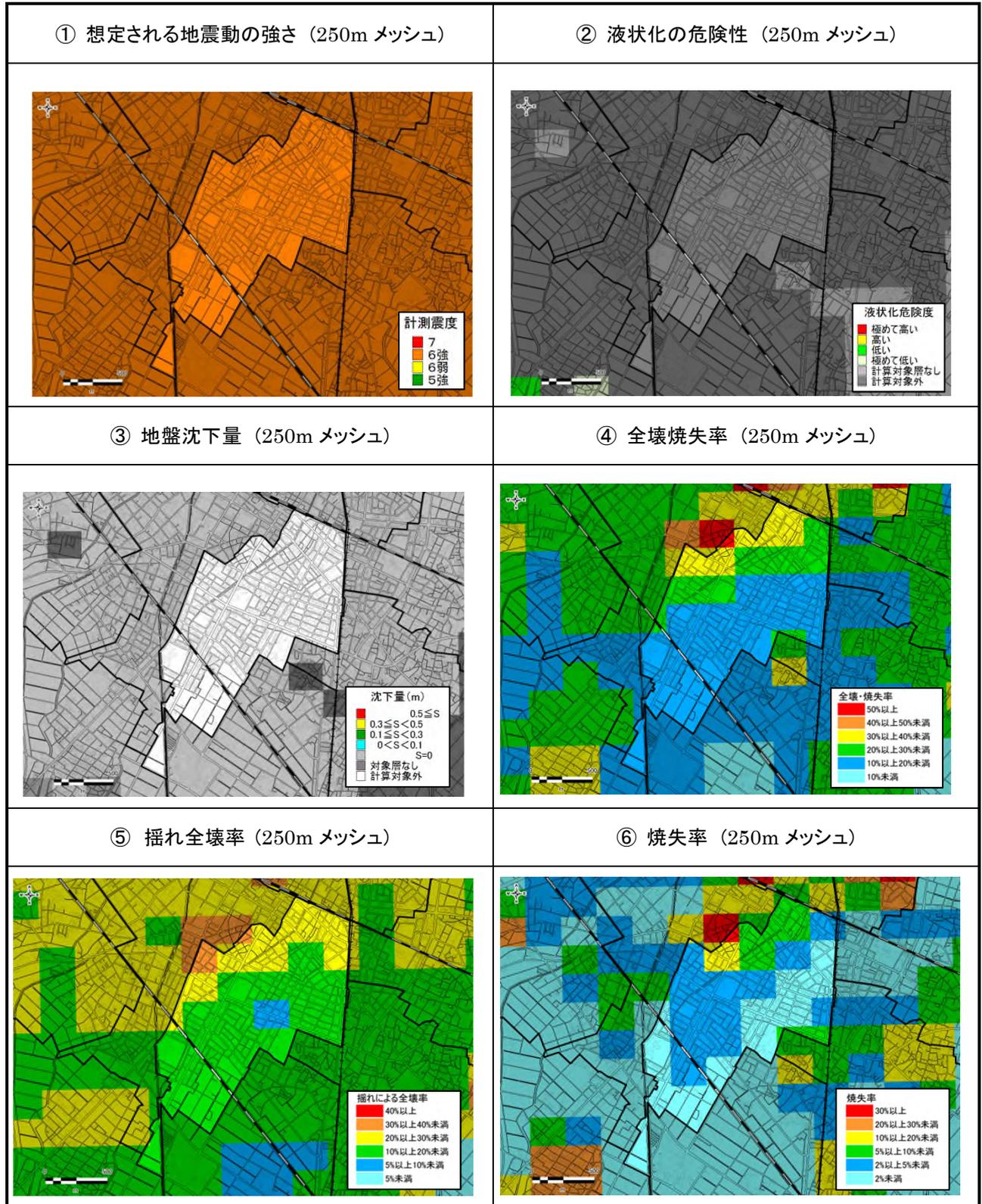
	1日後			1週間後			1ヶ月後		
	避難者数	避難所	避難所外	避難者数	避難所	避難所外	避難者数	避難所	避難所外
錦町小学校区	376	225	150	1,522	761	761	375	113	263
市計	8,271	4,976	3,295	26,649	13,359	13,289	8,142	2,442	5,699

※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

5. 被害予測の結果(理論上最大想定モデル)

理論上最大想定モデルとは：

- ・南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、千年に一度、あるいはそれよりもっと発生頻度が低い地震。発生頻度は極めて低いが、発生すれば甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震。
- ・「命を守る」という観点で想定外をなくすことを念頭に地震対策を講じることが不可欠であることから、あらゆる可能性を考慮して想定した最大クラスの地震・津波モデルとして設定。



5. 被害予測の結果(理論上最大想定モデル)

錦町小学校区は、震度 6 強の揺れが想定されている。震度 6 強は、はわないと動くことができないほどの非常に強い揺れであり、建物の耐震補強と家具の固定を進めることが大変重要である。
液状化に関しては、校区が台地上にあるため、液状化の対象となっていない。

<建物・人的被害の予測>

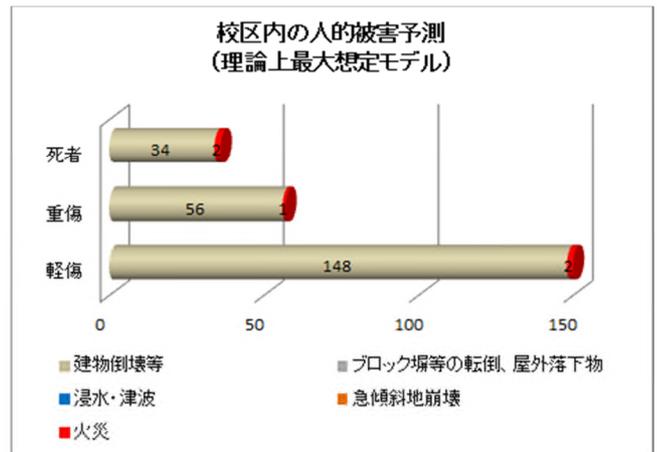
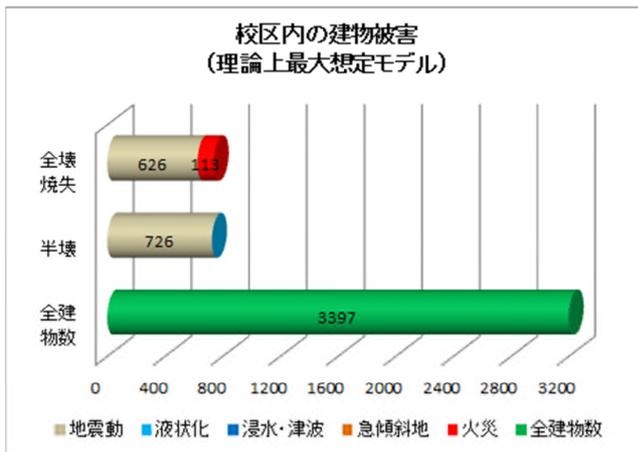
単位:(棟)

建物被害【冬・夕方発災】		
※()内は、校区の建物棟数3,397棟に対する割合		
	全壊・焼失	半壊
地震動	626	726
液状化	*	*
浸水・津波	0	0
急傾斜地	0	0
火災	113	—
建物被害総数	739(21.7%)	726(21.4%)

単位:(人)

人的被害【冬・深夜発災】			
※()内は、校区の深夜人口10,847人に対する割合			
	死者数	重傷者数	軽傷者数
建物倒壊等	34	56	148
(うち屋内転倒物・ 屋内落下物)	(2)	(12)	(42)
ブロック塀等の転倒、 屋外落下物	*	*	*
浸水・津波	0	0	0
急傾斜地崩壊	0	0	0
火災	2	1	2
被害者数合計	36(0.33%)	57(0.53%)	150(1.39%)

*: わずか



※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

6. 防災関連施設

防災関連施設	名称
警察署	—
緊急時ヘリポート可能箇所	—
消防署	—
消防団	—
拠点病院・救急病院・災害医療救護所*	安城南中学校
自主防災組織数	11
防災倉庫	錦町小学校、安城南中学校、昭林公民館、安城学園高等学校
応急給水施設	錦町小学校、安城南中学校、昭林公民館
井戸	—
マンホールトイレ	錦町小学校
学校	錦町小学校、安城南中学校、安城学園高等学校
保育園	錦保育園
幼稚園	安城幼稚園
公民館・福祉センター	昭林公民館

*大規模災害時にのみ開設される救護所

7. 避難所等一覧

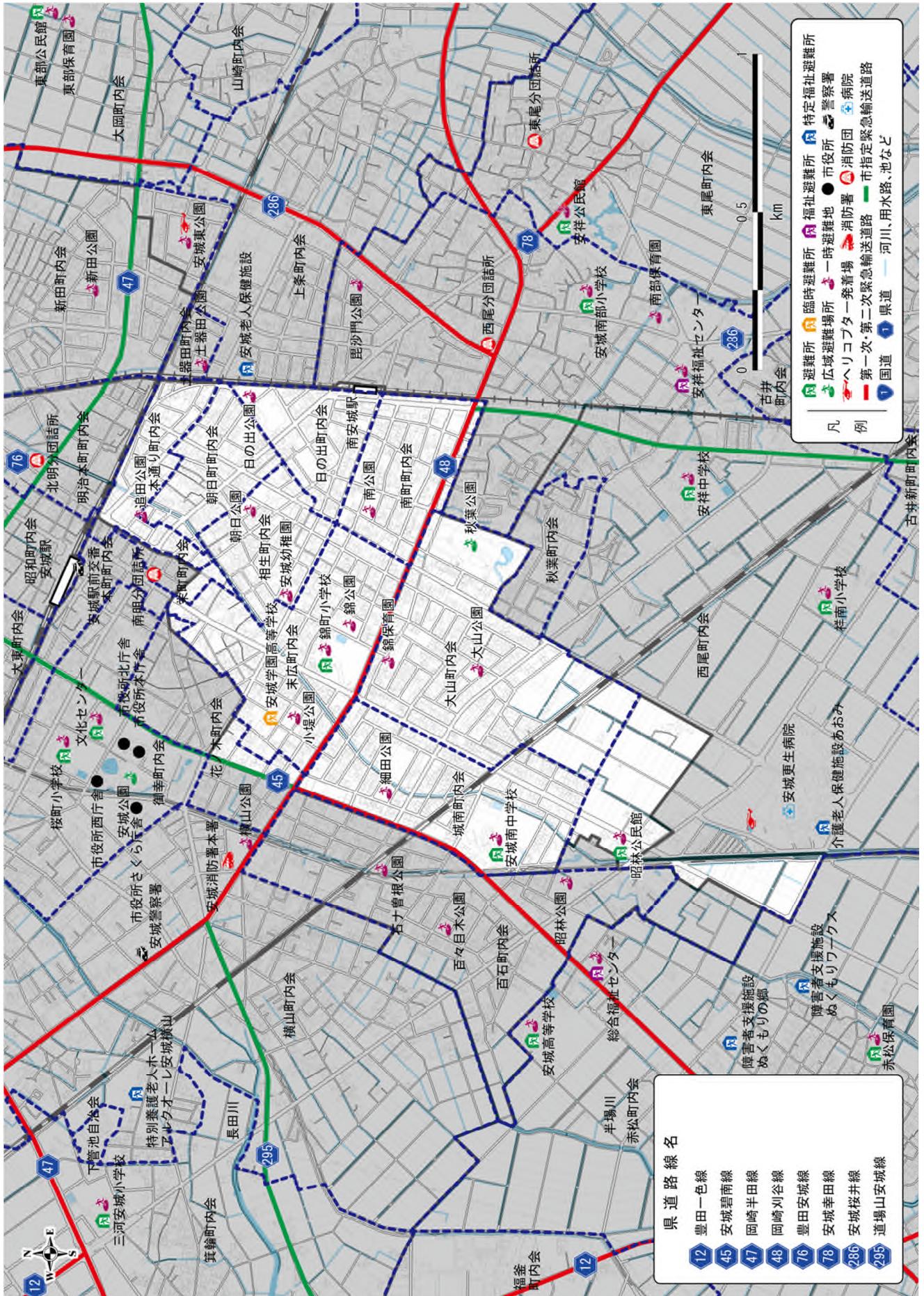
避難所	区分	施設名	電話番号	所在地	収容可能人員[名]		
	避難所	錦町小学校	75-2725	錦町 9-39	350		
		安城南中学校	75-3531	城南町 2-7-2	800		
		昭林公民館	77-6688	安城町広美 10-1	240		
臨時避難所	区分	施設名	電話番号	所在地	収容可能人員[名]		
	臨時※	安城学園高等学校	76-5105	小堤町 4-25	—		
避難場所等	区分	名称		所在地	面積[m ²]		
	広域		秋葉公園		大山町 1-7-1	39,900	
			日の出公園		日の出町 2	3,300	
			朝日公園		相生町 318	2,600	
			南公園		南町 27	3,800	
			錦公園		錦町 123	5,900	
			小堤公園		小堤町 245	2,900	
			大山公園		大山町 2-6-1	2,500	
		一時		細田公園		城南町 1-14-1	3,000
				追田公園		朝日町 557-1	1,300
				錦町小学校		錦町 9-39	9,000
				安城南中学校		城南町 2-7-2	13,000
				昭林公民館		安城町広美 10-1	1,800
				錦保育園		大山町 1-19-15	2,000
	安城幼稚園			相生町 18-7	1,000		

※市の依頼に基づき開設される臨時的な避難所

8. 防災上の課題

- 被害想定では、全壊・焼失、半壊となる建物の割合は、過去地震最大モデルで約 11%、理論上最大想定モデルで約 43%となっている。また、人的被害においても、建物倒壊等による死者数、重傷者数が、過去地震最大モデルで 9 人、理論上最大想定モデルで 90 人となっている。建物被害や人的被害を減少させるためには、昭和 56 年以前に建築された建物の耐震診断や耐震改修により建物の耐震化を進めることが必要である。
- 火災による建物被害では理論上最大想定モデルで全壊・焼失棟数が 113 棟となる想定が出ている。火災による建物被害を減らすためには、各家庭での消火器の準備等により火災を拡大させない対策が必要である。

9. 防災関連施設分布図



※最新の地形図とは異なる場合があります。

**平成28年8月配布
安城市危機管理課**